

## 令和元年度（H31.4月－R2.3月）学校運営評価

●評価は、I～Xの各カテゴリーごとの項目を 5.良い 4.やや良い 3.普通 2.やや不十分 1.不十分 で採点し、その平均点として表したものである。

カテゴリー・項目数	自己評価	学校評価委員会評価
I 学校経営 (5項目)	評価点【 4.4 】 養成所の設置目的及び運営計画、教育理念等を教職員で確認しているため認識・理解度は高い。運営計画と将来構想は示されているが、策定システムが明示されていないため、策定システムの構築が今後の課題である。例年課題であった学校関係者評価をしていただき評価結果はH/P等で公表予定である。	評価点【4.7】 ・学校運営に関して、全般的に良好と評価する ・設置目的、運営計画等それぞれが明文化されているので良い ・学校運営について、学生、市民が関心を持って目にする機会がさらに増えることが望ましい
II 教育課程・教育活動 (2項目)	評価点【 4.8 】 昨年度に引き続き、2022年の新教育課程開始に向け、2019年2月より計画的に教育課程検討会でカリキュラム評価及び検討を行っている。また、教員全員で夏の教員会議に検討の場を設けて次年度へ反映している。	評価点【4.9】 ・教育課程・教育活動は、学校設立の理念・目的・目標と一貫している ・社会情勢の変化にあわせて内容と言える ・教育課程・教育活動は良好と評価する
III 授業・学科 (5項目)	評価点【 4.6 】 授業計画が作成され教育課程との整合性があり、シラバスの内容は確実に実施されている。しかし、1単位の担当者が3人以上の科目が複数ある。また学習の順序性や進度については外部講師の都合で変更せざるをえない状況である。さらに教員の専門領域も移行期のため固定が難しい領域もあり、継続した改善が難しい状況がある。これらの課題を2022年の新教育課程の編纂時には改善できるように検討し、先を見越した教員の担当役割をしていく。	評価点【4.7】 ・授業・学科に関しては、ほぼ良好であると評価する ・外部講師に依存を避けられない専門学校の現状が理解できる
IV 実習 (4項目)	評価点【 4.8 】 実習については実習指導講師・臨地実習指導者・教員の3者が協力している。実習要項の見直しと共に指導要項を作成し実習施設に配布した。実習施設の実習指導者や教員の役割を明文化しているため、今後はその活用を進め指導に役立てたい。患者への倫理的配慮の不足やインシデントの発生もみられた。教員・学生・指導者間で再発防止のために建設的な検討を行い予防策を講じていく必要がある。	評価点【4.9】 ・臨床との協力体制は良くできている ・時間的に困難であるが、リフレッシュ、実習後の各学生の振り返りを臨地実習指導者と共に出来る
V 入学 (2項目)	評価点【 4.6 】 学校説明会は対象者を明確に区分した2部制で実施し、参加者から好評を得た。今後も説明会の開催方法等を工夫をしていく。校内入試担当者会にて入試に関する実施・評価方法が明文化がされ、入試実施方法・評価方法について協議された。社会や地域情勢を踏まえた取り組みとして、現行の指定校推薦制度に加え、公募型推薦制度を取り入れた入試制度の検討を今年度より始めた。今後は、社会人入試制度の導入に関しても検討していく。今後も引き続きH/P等を活用した学校情報の発信は積極的に行っていく。	評価点【4.9】 ・学校説明会は、看護士志望の人にとって、情報提供の方法として良い
VI 学生への支援 (4項目)	評価点【 4.9 】 現状では、学習困難な学生に対しては、教員が個別指導を実施している。今後は、奨学金など経済的側面とカウンセリング利用促進体制の充実など精神的側面の支援が課題といえる。	評価点【4.9】 ・既卒者から、経費を心配する声が聞かれたので、学校説明の際、奨学金制度、市の母子支援等について詳しく説明すると良い
VII 卒業・就職・進学 (5項目)	評価点【 4.8 】 今年度も継続して、効果的に地元への就職支援を行うことができた。今後も、社会的状況を踏まえ、効果的な進路指導の強化をしていく。今年度、卒業生の卒業実態を把握するためのアンケート調査を実施した。卒業生の状況把握を継続し、在校生進路指導の一助としていく必要がある。	評価点【4.9】 ・地域医療への貢献はできている ・中小病院での離職率を調査したらどうか ・新卒者への支援が不十分な施設もあるので、今後施設訪問等卒業後の支援を検討してほしい
VIII 管理・財政・施設整備 (7項目)	評価点【 4.6 】 パソコンに関しては、「富士市情報セキュリティ対策基準」に即した管理を徹底していく。不審者の侵入に対しては、未実施箇所の施錠を徹底するなど不審者対策を強化した。監視体制整備を継続的に行っていく。学校に関する情報提供は、学校HP等で情報発信は行っている。学校評価委員会にて評価していただいた学校運営評価はH/Pで公表予定である。学校説明会は、個人を重視した個別相談会の開催も今後検討していく。「施設整備の計画的な整備・改善」は、教材の充実が進んでいるが、十分な教材活用が今後の課題である。	評価点【4.7】 ・開校28年を過ぎ、施設、備品の老朽化が考えられるが、計画的に改修・修繕が行われている
IX 教職員の育成 (5項目)	評価点【 4.3 】 「計画的な研究調査活動」「他教員の参観・評価」の評価が低く、全てにおいて時間不足との意見が多い。今年度は1名教員の確保ができたが、今後も教員の適正人数の確保につとめていく。「教員の専門性を高める体制」は、専門性の固定が困難、授業準備時間が充分でないとの意見が多い。現状、専門領域の研修等経費が保証されているが、時間不足のため、専門性が充分発揮できていない。	評価点【4.7】 ・新人教員が多い時期であり、教員育成には時間と労力を要する ・経験の多い教員からの指導・支援を受けることできる時間の確保が必要と考える
X 地域社会への貢献 (1項目)	評価点【 4.7 】 地域のボランティア活動や小中高校への教育活動を通して、地域社会への貢献が行えているとの評価であった。現状、学生は時間がなく推奨は困難であるが、今後も活動を継続していく。昨年度立ち上げたH/Pを充分活用した学校の広報活動は行っている。今後は、新カリキュラムと地域社会との交流等をどのように構築していくが課題である。	評価点【4.7】 ・地域社会への貢献は、行えている ・学生自治会と協同し、看護学生としての社会貢献の意味・活動を考えてはどうか

### ◆学校評価委員会

委員長 富士市立看護専門学校 校長  
委員 富士市保健部長  
富士市立看護専門学校 副校長  
静岡県看護協会 理事  
富士市立看護専門学校同窓会長  
保護者代表